

●天城山を中心とした
**伊豆市の
ハイキングコース**
24選

伊豆市

1 修善寺温泉史跡・文学散歩

修善寺温泉は弘法大師が発見したと伝わる伊豆最古の温泉。歴史と自然に囲まれた温泉地は、源氏三代の悲劇の舞台となつた所。桂川をはさんで温泉情緒たっぷりの風情が残り、古くから多くの文人墨客が訪れ、沢山の名作を残している。岡本綺堂の「修禪寺物語」もその一つである。

修善寺駅から修善寺温泉駅行き、若しくは戸田行きのバスで7分、修善寺温泉駅で下車。みやげ物店が並ぶ温泉街を行くと日枝神社がある。境内には大きな夫婦杉や天然記念物のイチイガシ、源範頼が住んでいたという信功院跡がある。

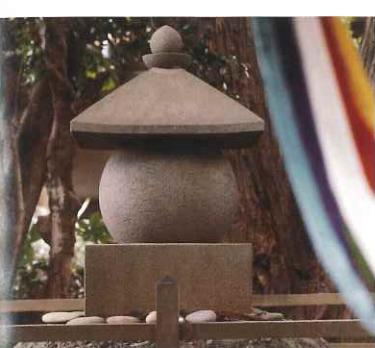
隣が修禪寺。寺の前を流れる桂川の中には「独鉛の湯」がある。その昔、冷たい川の水で病いの父親の体を洗う少年に心打たれた弘法大師

が、手に持っていた仏具の独鉛杵で川の岩を碎き、靈泉を湧出させて温泉療法を教えたと伝わる伊豆最古の温泉である。毎年4月21日には大師の靈前に歓湯する湯汲み式が行われている。

福地山修禅寺は平安初期、弘法大師の開基と伝わる名刹。宝物館「瑞宝蔵」には岡本繪堂の名作「修禅寺物語」のヒントになった頼家の面や政子署名の放光般若波羅密多經、頼家の陣旗、範頼の馬具などが展示されているほか天井には川端龍子の「玉取龍」が描かれている。鐘楼脇の竹林から寺の裏手に回り、静かな住宅街を範頼の墓へと向かう。源範頼は、兄頼朝の誤解を受けて修禅寺に幽閉され、後に梶原景時に攻められ、信功院で自害している。



独鉱の湯



節頓の墓



竹林の小径

源氏三代の悲劇の舞台と伊豆の名門・古湯に文人墓は立派な五輪の塔で温泉場外れの高台にひっそりと佇んでる。畑の中を下って広い舗装道を横断して「風の径」を行くと赤蛙公園。島木健作の短編「赤蛙」の取材地で梅や桜の木立に囲まれた池には蛙の像がある。

川沿いに竹垣のある小道を行くと「ギャラリー・しゅせんじ回廊」がある。回廊式展示場で修善寺の歳時記や花、山野草、日本画などを写真をを使って展示している。特に春の桜名所、秋の紅葉名所の写真展は好評だ。

赤い桂橋を渡ると竹林の小径に入る。真ん中に直径4㍍の竹製の円形ベンチがあり、ここに寝そべって空を見上げるドリフレッシュできる。歩道の境界には桂垣や光悦寺垣、建仁寺垣などが使われている。

指月殿は一切経堂とも呼ばれ政子が、わが子・頼家の冥福を祈つて「宋版大藏經」と共に修善寺に寄進したもので、禅宗式の珍しい形の丈六釈迦如来座像が祀られている。

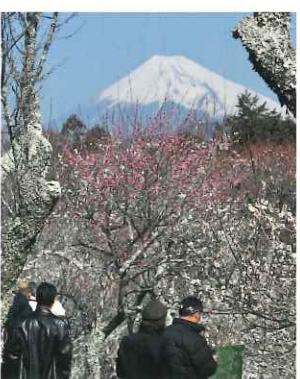
すぐ脇に源頼家の墓。頼家は鎌倉二代将軍となつたが、北条氏の策略により修禅寺に幽閉され、虎渓橋近くの菖湯で入浴中に暗殺された。辺りは広い源氏公園となっていて、その一角に頼家の死を追い自刃した「十三士の墓」がある。

頼家の墓から鹿山を散策するコースを登る。桂谷八十八ヶ所巡回コースの44番から37番までの8ヶ所を巡るコースである。おしゃぶり婆さんの石仏や源義経の像、吉田絃二郎・明枝夫妻の墓、明枝の句碑などがある。下つてみゆき橋を渡つて左に行けば起点の修善寺温泉駅だ。

また、温泉場から修善寺梅林までの山道は「花と文学の散歩道」となっているので併せて歩いてみるのもいい。梅園まではちょっときつい上りなので、もみじ林までバスで行き、梅園を抜けて温泉場に下る方が楽である。

修善寺梅林は2月に紅白3000本の梅が咲く花の名所。遊歩道沿いには修善寺ゆかりの中村吉右衛門、高浜虚子、尾崎紅葉、市川左団次らの句碑と「修禅寺物語碑」がある。散歩道を温泉場に下り源範頼の墓へと結んで歩いてもいい。

すぐ脇に源頼家の墓。頼家は鎌倉二代将軍となつたが、北条氏の策略により修禅寺に幽閉され、虎渓橋近くの菖湯で入浴中に暗殺された。辺りは広い源氏公園となっていて、その一角に頼家の死を追い自刃して「十三世の臺」がある。



▲修善寺梅林

2 いろは道

奥の院・桂大師

いろは石を辿って弘法大師ゆかりの
奥の院・そして桂大師へ

“色は匂へど散りぬるを、我が世
誰ぞ常ならむ、有為の奥山今日越え
て、浅き夢見し醉ひもせず、言わざ
とした手習歌の一ツ「いろは歌」
である。作者には諸説あるが、平仮
名47文字を重複しないように、弘法
大師が作ったと伝わる歌である。

このいろは文字に「ん」を加えた
48文字を刻んだ石碑が、修善寺の山
門から湯舟の奥の院までの5kmの間
に建てられている。この石碑は明治
39年（1906）、弘法大師の熱烈
な信者であった東京の日高屋商店・
高橋為三郎さんによって寄進された
ものである。建てられた当初は僧侶
や信者たちの道しるべとして大変喜
ばれたという。

建てられて100年以上も経つて
いるので、その後の道路整備や宅地
化によって欠けたり失われたものが
あつたため、平成3年（1991）
4月に全面的に補修が行われた。補
修により新旧取り混ぜて48基。修善
寺の「い」から奥の院の「ん」まで
順に辿って訪ねてみよう。道順に
従つて分かりやすく設置されている
ので、探しながら歩くのも面白い。
また、いろは道は桂谷八十八ヶ所
巡拝コースの一部にもなっているの
で、併せて訪ねてみよう。

いろは石と桂谷八十八ヶ所の二
種類の石碑のほかに信仰の道らし
く各所に石仏や石碑などがあるの
で、野仏などの見方の参考書を持っ
ていくとより楽しくなる。

修善寺駅から修善寺温泉行きの
バスで7分、終点で下車。狭い温
泉街を抜けると日枝神社の隣に修
善寺がある。



起終点

修善寺駅へ

→

桂川

→

3 桂谷八十八ヶ所めぐり

修善寺温泉を取り囲む自然の中に
四国霊場巡拝にひとしいご利益を求めて

の各靈場の山号・寺号、ご本尊名、
ご詠歌などが刻まれている。
石碑の設置場所も老師が自ら歩い
て、これを決めたという。石碑前の
礼拝石の○印の下に四国靈場の土が
埋められているので、これを踏んで
巡拝すれば、四国靈場巡拝と同じ功
徳があるという。



1200年の歴史と自然
に満ちた修善寺温泉は、弘
法大師が発見したという湯
処・伊豆の名門。この温
泉場を囲む自然の中に四
国八十八ヶ所を模した桂谷
八十八ヶ所がある。

昭和5年(1930)、
当時の修善寺38世丘球学老
師が四国の各靈場の土を持
ち帰り、弘法大師ゆかりの
修善寺に移し桂谷八十八ヶ
所として創つたものであ
る。仙台石に丘球学老師と四國
による弘法大師像と四國

を加えた90基の大師像が建てられて
いる。

八十八ヶ所を詳しく案内すること
は誌面の都合でできないので、毎年
11月7日~9日まで、2泊3日を
かけて家内安全・無病息災・大願
成就を祈念しながら巡拝する桂谷
八十八ヶ所めぐりが行われるので、
これに参加するのがおすすめ。修
善寺の僧侶たちの先導で初日が修



▲88ヶ所石碑



▲巡拝風景



*修善寺から奥の院までは「いろは道」と呼ばれ
いろは48文字の石碑がたてられています。
(詳細は4・5頁参照)

4 修善寺歩道

伊豆山稜線歩道は天城峠から仁科峠～船原峠～戸田峠～だるま山高原レストハウス～修善寺自然公園までの全長42kmのコースを言う。

その内、修善寺歩道と呼ばれる所は戸田峠から富士見コースを経由してだるま山高原レストハウス、更に虹の郷までのコースである。富士見コースは金冠山の頂で紹介してあるので、ここではだるま山高原レストハウスからのコースを紹介する。

分、だるま山高原レストハウスで下車。伊豆三絶の一つに数えられる所なのでレストハウスから駿河湾越しの富士山を眺めていこう。(11
貢参照)

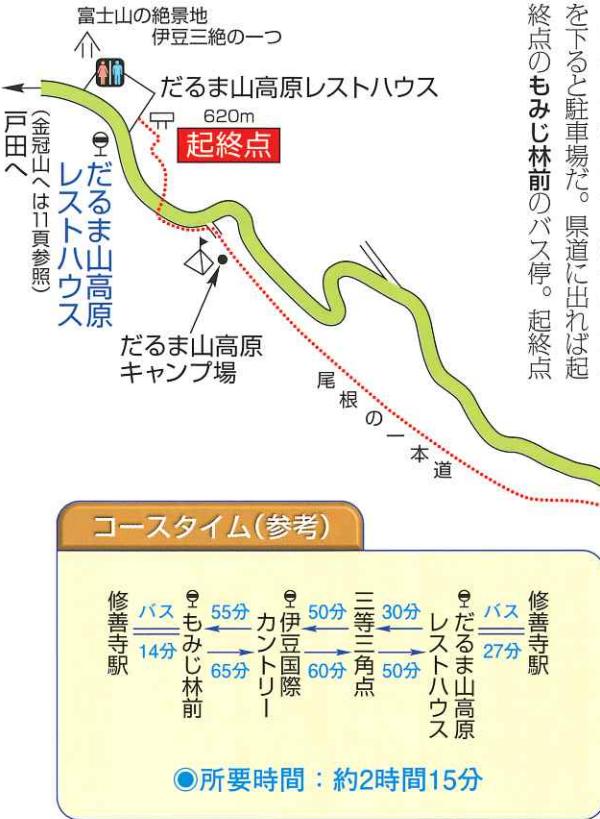
この地はキャンプ場となりていて、キャビンが数棟あり、夏にはキャンパーで大変賑わう。

駐車場の左手にある達磨像の手前から樹林帯に入る。一旦樹林帯を抜け出ると県道に出て横断し、道沿いに下る。すぐにキャンプ場の入口で広い駐車場となっている。管理棟の前を横切りリゾートサイトのあるキャンプ場へと下って行く。展望の良い所で、富士山は勿論、駿河湾、天城連山、達磨山が望める。

大きな忠魂碑がある広場を右に見て下ると広いマツ林。左手の丘からは富士山が望める。かつてここに天然記念物の富士見のマツがあつた所で、その名残の切り株がある。

(1924)、修善寺町制施行記念として力エド5種類、およそ2000本が植栽されたもので、モミジ林としては伊豆最大の規模を誇っている。秋には大勢のもみじ狩りの観光客で賑わう。園内には夏目漱石の碑

真っすぐ下れば公園の駐車場だが途中の三差路を右に上ると霞原観音堂があり、33観音が祀られているので寄って行きたい。観音堂の石段を下ると駐車場だ。県道に出れば起終点のもみじ林前のバス停。起終点



A group of approximately ten people, mostly women, are gathered in a dense forest. They are dressed in casual outdoor attire, including hats and backpacks. Some individuals are holding cameras or binoculars, suggesting a field trip or a research activity. The ground is covered with fallen leaves and pine needles. In the foreground, there is a small white marker post and a grey rectangular object on the ground.

A landscape painting depicting a path through a dense forest during autumn. The scene is filled with trees whose leaves are a vibrant mix of red, orange, and yellow, suggesting a full autumnal bloom. The path, which appears to be made of dirt or packed earth, leads the eye through the center of the composition. On the left side, there's a cluster of trees with more reddish-orange tones. The right side shows a mix of yellow and orange foliage. The background is filled with more trees, their branches bare or partially obscured by the autumn leaves. The overall atmosphere is one of a quiet, sunlit day in a rural or woodland setting.

A scenic view of Mount Fuji, Japan, showing its snow-capped peak rising above a layer of clouds. The foreground is filled with autumn-colored foliage.

から虹の郷は県道を右に5分ほど歩いた所にある。

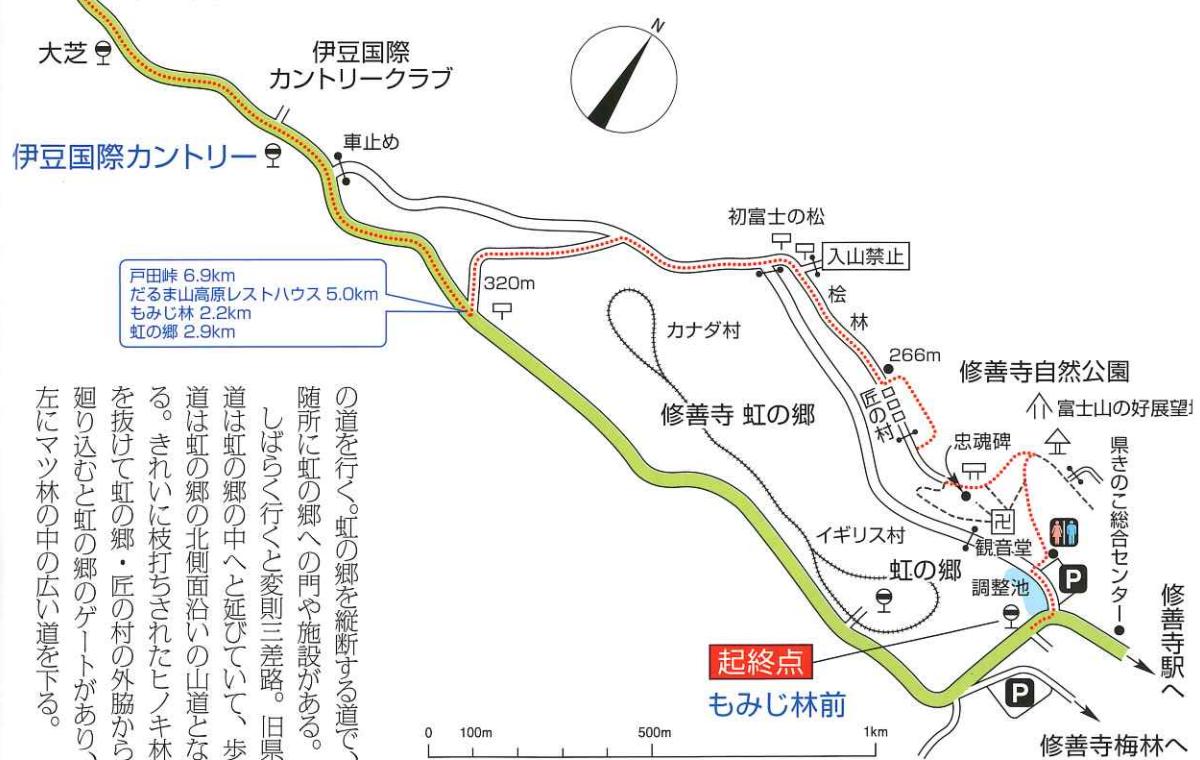
また、近くの県道沿いに県きのこ総合センター（入館無料）があり、きのこのあれこれが展示されているので興味ある人は寄っていきたい。山で見つけた解らないきのこの鑑定もしてくれる。

キャンプ場を抜けると下りが少し
きつくなり灌木の中の防火帯の広い
尾根道を下る。春先にはワラビが沢
山生える所で、わらび狩りを楽しむ
家族連れが目立つ。

長い防火帯の尾根道を下り切ると
県道の三差路に出る。そのまま横断
して斜面を登る。急な道を上がり切
ると三等三角点がある。ここをぐつ
と右に曲がり、樹林帯の中を下る。
県道に一旦近づいて雑木林に入っ
て、抜けると、また県道の三差路に
出る。右に下る道は北又から修善寺
へ行く道だ。ここでは真っすぐ県道
を歩くことになる。県道に歩道がな
いので伊豆国際カントリークラブの
先までのおよそ2ヶ所は車道を歩かね
ばならない。車には十分気をつけて
歩いてほしい。

カントリークラブから旧の県道を
左に見て下ると、左に歩道の入口が
ある。だるま山高原レストハウスか
ら2ヶ所、もみじ林まで2、4ヶ所、虹
の郷まで2、9ヶ所の地点である。

灌木の中の広い道を緩やかに下る
と旧の県道に合わかる。しばしこ



の道を行く。虹の郷を縦断する道で、随所に虹の郷への門や施設がある。
しづらいへ行くと変則三差路。旧県道は虹の郷の中へと延びていて、歩道は虹の郷の北側正面沿いの山道となる。きれいに枝打ちされたヒノキ林を抜けて虹の郷・匠の村の外脇から廻り込むと虹の郷のゲートがあり、左にマツ林の中の広い道を下る。

防火帯から樹林帯を抜けて
伊豆最大のもみじ林へ

5 金冠山・きよせの森

富士山の絶景地から野鳥・植物・森林浴の森へ

伊豆三絶（伊豆を代表する絶景地三ヶ所）の一つに数えられているのが「だるま山高原レストハウスからの富士山」である。ここを世界に知られた日本一の富士山の展望地として有名にしたのは、昭和14年（1939）に行われたニューヨーク万博である。ここから写した富士山の大写真が日本の代表的風景として展示されたのである。縦17尺（約5.5m）、横108尺（約33m）の大写真の全面に垂れ竹を配し、竹林越しに富士山が見られるように展示大絶賛を博したと伝わる。ここを起點として富士山の好展望地として知られた金冠山へのハイキングコースは子供から中高年まで誰でも歩ける手頃なコースである。



▲だるま山高原の富士山

新緑や紅葉の時期も良いが、何より富士山が良く見える秋から冬がいい。また、周辺はマメザクラの名所なので花の咲く4月中旬もおすすめだ。コースとしては金冠山からきよせの森を経てだるま山高原レストハウスに戻る周回コースがよい。

修善寺駅から戸田行きのバスで27分、だるま山高原レストハウスで下車。車利用の場合はレストハウスの駐車場（無料）を利用するとよい。

県道を少し行くと金冠山への登山口がある。雑木林を登るとすぐに芝生の広場。3~4月ころは各種の桜が咲く所だ。金冠山までは広く切られた防火帯の道が緩やかに上っていいる。富士見コースと呼ばれるよう

に時折、右手の樹林の上に富士山が花があちこちにこんもりと咲いているのが見られる。マメザクラも多くの山が見えてくる。辺りはアセビの群生地で3~4月には壺状の真っ白な道が平坦になると正面に丸い金冠

山が見えてくる。これはアセビの群生地で3~4月には壺状の真っ白な花があちこちにこんもりと咲いてい

るのが見られる。マメザクラも多くの山が見えてくる。辺りはアセビの群生地で3~4月には壺状の真っ白な花があちこちにこんもりと咲いてい

るのが見られる。マメザクラも多くの山が見えてくる。辺りはアセビの群生地で3~4月には壺状の真っ白な花があちこちにこんもりと咲いてい

るのが見られる。マメザ克拉も多

く、4月には辺り一面薄いピンク色で染まる。マメザクラは伊豆地方ではコメザクラともいい、富士山地方ではフジザクラ、箱根地方ではオトメザクラとかハコネザクラとも呼ばれる、直径2ヤンほどの桜である。

防火帯が終わったら管理道（舗装）

が横断し10分足らずで**金冠山**の山頂に着く。弧を描く駿河湾を全貌にした富士山をはじめ愛鷹山、箱根山、遠く南アルプスまで望める。

下りはパラボラアンテナの脇を通じ北側の橋を廻り前の麓に出たら、そのまま舗装道を戸田峰へと下る。峰から左に県道を少し下る右手

にきよせの森の入口がある。きよせの森は生活環境保全林で83種、1万8000本余りの樹木が植栽されている。保全林に入るとスギ・ヒノキの林で、道とほぼ平行して小さな沢が下っている渓流コース。一帯

はマメザクラの群生地で花を愛でながら歩ける。

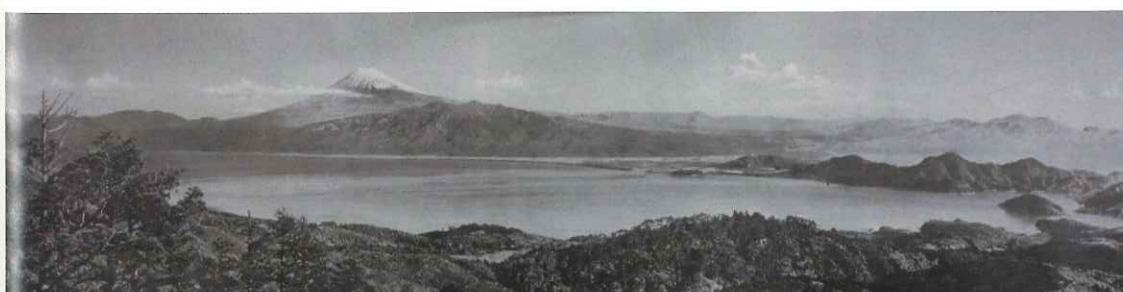
森はエンジュの森からツバキの森、木の実の森、野鳥の森、クヌギの森などに分かれているが、歩道同様、はっきりした表示がないので、どこをどう歩くか地図を確認しながら歩いてほしい。

だるま池と野鳥の池が一つのポイント。この二つの池には天然記念物のハコネサンショウウオが生息している。森は植物や野鳥観察、森林浴には絶好の場所である。

クヌギの森の急な歩道を上がると

だるま山高原レストハウス前に出

る。



▲ニューヨーク万博に出品された富士山の大写真（複写）



6 達磨山

だるまやま

天城峠から西に向かって伸びた分水嶺は伊豆山稜線歩道である。伊豆山稜線歩道の西の端にあるのが達磨山である。伊豆では三ヶ所ある一等三角点の一つがあり、その展望の良さから十三国峠とも呼ばれている。

十三国とは安房（現在の千葉県南部）・相模（神奈川県）・武藏（埼玉県）・甲斐（山梨県）・信濃（長野県）・伊豆（静岡県東部）・駿河（静岡県中部）・遠江（静岡県西部）・三河（愛知県東部）・尾張（愛知県西部）・美濃（岐阜県南部）・伊賀（三重県西部）・伊勢（三重県）である。

一等三角点の後の二つは万三郎岳（1405.6m）と南伊豆町と松崎町の境にある暗沢山（520.3m）である。

達磨山の名の由来は、静岡県中部の由比・清水方面から見ると、丁度ダルマさんの姿に見えるという。また、滑っても転んでも、すぐに起き上がる山、という説もある。

このコース、戸田峠からだと、終始富士山を背にして歩くことになるので、逆の船原峠から歩いたほうがおすすめだ。

修善寺駅から松崎、または長八美術館行きのバスで28分、大曲茶屋で

下車、国道をそのまま進んで、旧道に入り、およそ3時間先の船原峠へ。

西天城高原線の大きな橋の下から橋を渡り沿いに階段を上る。2体の石仏を見て灌木林を抜け、一旦スカイラインに出て、再び灌木林に入る。各入口には道標がしっかりとあるので迷うことはない。この後、しばしふしライイン沿いの歩道を緩やかに上がり広い土肥駐車場に着く。西天城方面の山並みと土肥方面、駿河湾が望める展望地で、北の灌木の間から富士山も望める。

駐車場の端から再びササ原の歩道を上ると、左手のササ原の中に三角点がある。スカイラインに出た所に伽藍山の道標。山頂らしからぬ場所である。本来は三角点の所が伽藍山であろう。

スカイライン沿いに進むと、小土肥駐車場。なぜかここに鉄棒がある。この後もササ原の歩道に入り、枯死木に注意しながら歩いていくと古稀山に出て。富士山が素晴らしい姿を見せるので、近年、古稀（70才）を迎えたハイカーがよく訪れる山として人気がある。

達磨山は目の前だ。緩やかなササ原を登ると一等三角点のある達磨山山頂だ。達磨山は達磨火山外輪山の

最高峰で天城山、箱根山、南アルプス、丹沢山地、駿河湾と360度の大展望を誇る頂きである。

達磨山は天城四兄弟の長男で、別名万太郎（番太郎）とも呼ばれている。後の人々は万三郎・万三郎・長九郎である。

富士山に向かって下る。左手に弧を描いた入江は戸田湾である。一旦、スカイラインに出て、再びササ原を登る。アセビやイヌツゲの木が目立つ。春には達磨山の斜面はアセビの白い花とマメザクラのピンク色で染まる。

小達磨山を越えて下ると戸田峠に出る。ここで修善寺駅行きのバスを待てばよい。バスの便が少ないので事前に調べておくこと。時間と足に余裕があれば、金冠山を往復してもよい（所要時間は30～40分）し、だるま山高原レストハウスまで歩いてもよい（約40分）。

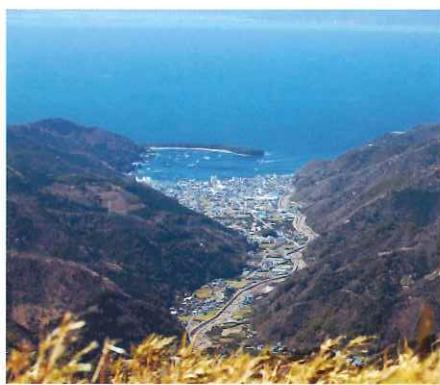


▲船原峠の石仏

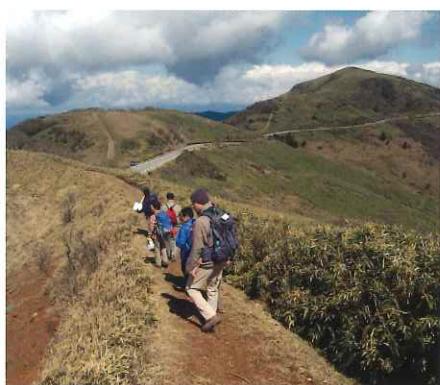
富士山の展望を楽しみながらササ原の稜線を歩く



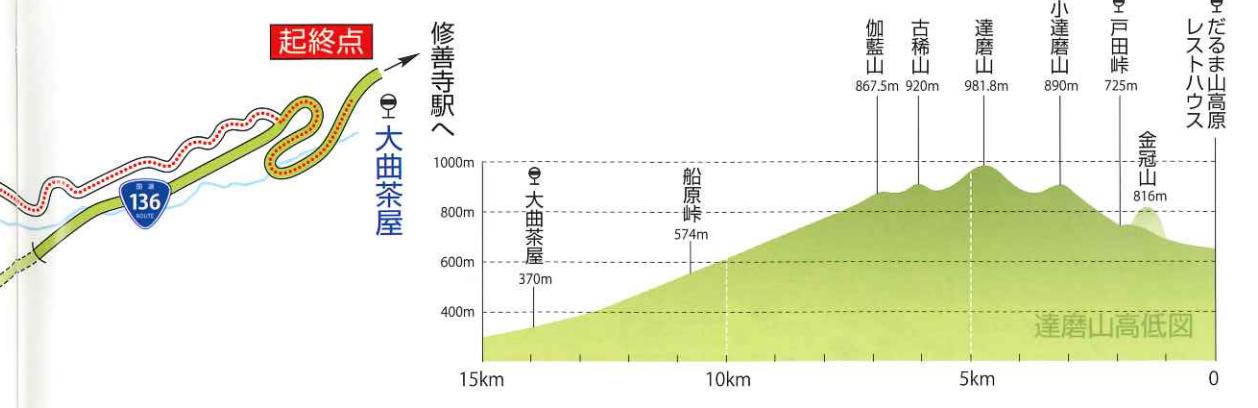
▲達磨山からの富士山



▲沿線から戸田湾を望む



▲達磨山へ向って



7 コビサワラ原生林

萬城の滝から天城の原生林へ
三大毒草も見られる知られざ

中伊豆地区の真ん中を貫いて流れ
る大見川の支流・地蔵堂川のさらに
上流にコビサワラ川があり、近くに
ほいづら川がある。この二本が、

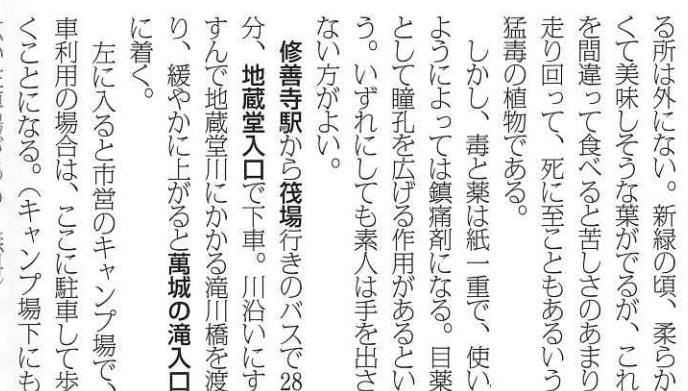
キ、イタヤカエデ、ミズキなどが鬱蒼とした森を作っている。野鳥の数も多く自然観察や森林浴、散策に絶好の行楽地である。

夏休みにはキャンプする若者や家族連れで賑わう。無料参加できる自然観察会も毎年行われているので興味ある人は、キャンプ場へ問い合わせをせることいい。

サワラ原生林の入口。車利用で原生林だけ歩くのであれば、少し先の路 上や周辺に駐車ができるが、切り出した材木を運搬する大型トラックが時折り通ることがあるため、おすすめはできない。



ハシリドコロ



る所は外で、新緑の頃、柔らかくて美味しそうな葉ができるが、これを間違って食べると苦しさのあまり走り回って、死に至ることもある。猛毒の植物である。

しかし、毒と薬は紙一重で、使いようによつては鎮痛剤になる。目薬として瞳孔を広げる作用があるといふ。いずれにしても素人は手を出さない方がよい。

修善寺駅から筏場行きのバスで28分、地蔵堂入口で下車。川沿いにすんで地蔵堂川にかかる滝川橋を渡り、緩やかに上がる萬城の滝入口に着く。

左に入ると市営のキャンプ場で、車利用の場合は、ここに駐車して歩くことになる。(キャンプ場下にも

キの大木があつて、シダ類やカエデ、ツツジ、スギ、カシワ、ツタウルシなど十数種類の着生植物が見られる。気を付けないといけないのがツタウルシで、かぶれ易い人は触つたり近づいたりしない方がよい。

滝の入口まで戻り林道を行く。すぐの広いバスの転回所から右にヒノキ林に入り、川沿いの遊歩道を上つて行く。夏なら涼しい風が気持ちよい道である。

大きな堰堤を見てしばりく上がる水量の多い小滝にぶつかる。小さながら迫力のある滝である。ヒノキ林を抜けると再び林道に出る。左に道なりに進み、どこまでも続くわさび田を見ながら舗装道路を緩やかに上つて行く。

右が見られる。マツが自立つようになると左下に涸れた沢を見下ろす所に来る。その沢筋に群生する植物が自立つようになる。ハシリドコロである。4月頃にはナスの花に似た暗緑紫色の花が咲き、花が終わると嘘のように何もなくなってしまう。

少し上って涸沢を渡り、スギ・ヒノキの林を抜けると原生林の端に出る。ロープ柵に従い林内をぐるりと一周して来よう。高低差も少ないのに気軽に森林浴や自然観察が楽しめる。トリカブトのほかにシキミやツルシキミなどの毒草もあるので要注意。木の実・草の実にはやたらと手を出さないように。

帰りはもと来た道を戻る。



▲原生林の巨木を計る



▲ 萩城の滝キャンプ場



▲ 萩城の滝

8 天城シャクナゲコース

天城の花の女王 アマギシャクナゲを訪ねる

天城山は東西44km南北24kmで実際に伊豆半島の約3分の一を占める天城山系の総称で、天城山という山はない。最高峰は万三郎岳(1406m)など一連の山々が天城九木(松・杉・桧・榎・櫻・桜・梅・楠・榧)などほかにブナやヒメシャラ、イヌシデ、アセビ、マメザクラ、カエデ類などが見事な自然林を作りだしている。

天城の名は、山中に甘木(アマギアマチャ)がたくさんあることからついたという。また、麓から見上げると天に聳える城のようだ、という説もある。

天城が一番華やかになるのは5月。6月で、トウゴクミツバツツジ、ドウダンツツジ、アマギシャクナゲが咲く。6月下旬に入ると赤いアマギツツジが山々を染める。天城山の固有種であるアマギシャクナゲは主に石楠立(はなたて)付近から万三郎岳にかけて多く見られ、5月中旬から6月初旬の見ごろには、たくさんの花見ハイカーで賑わう。

伊東駅から天城高原ゴルフ場行きの天城東急リゾートシャトルバスで55分、天城縦走登山口で下車。マイ

カー利用の場合は、登山口にハイカー専用無料駐車場(普通車88台・大型バス5台可)がある。ただし、シーズン中の土・日・祝日には早くから満車となることがある。

天城縦走路の案内板を見て杉・桧の林に入る。木橋を渡り堰堤から階段を上がり平坦な道を20分足らずで四辻(万二郎登山口)の三差路。万二郎岳55分の道標がある。シャクナゲコースは、ここから万二郎岳へ万三郎岳へ涸沢分岐点へ四辻(万二郎登山口)と周遊コースなので、どちらから廻ってもよいが、ここでは四辻から左に入り万二郎岳へと向かう。

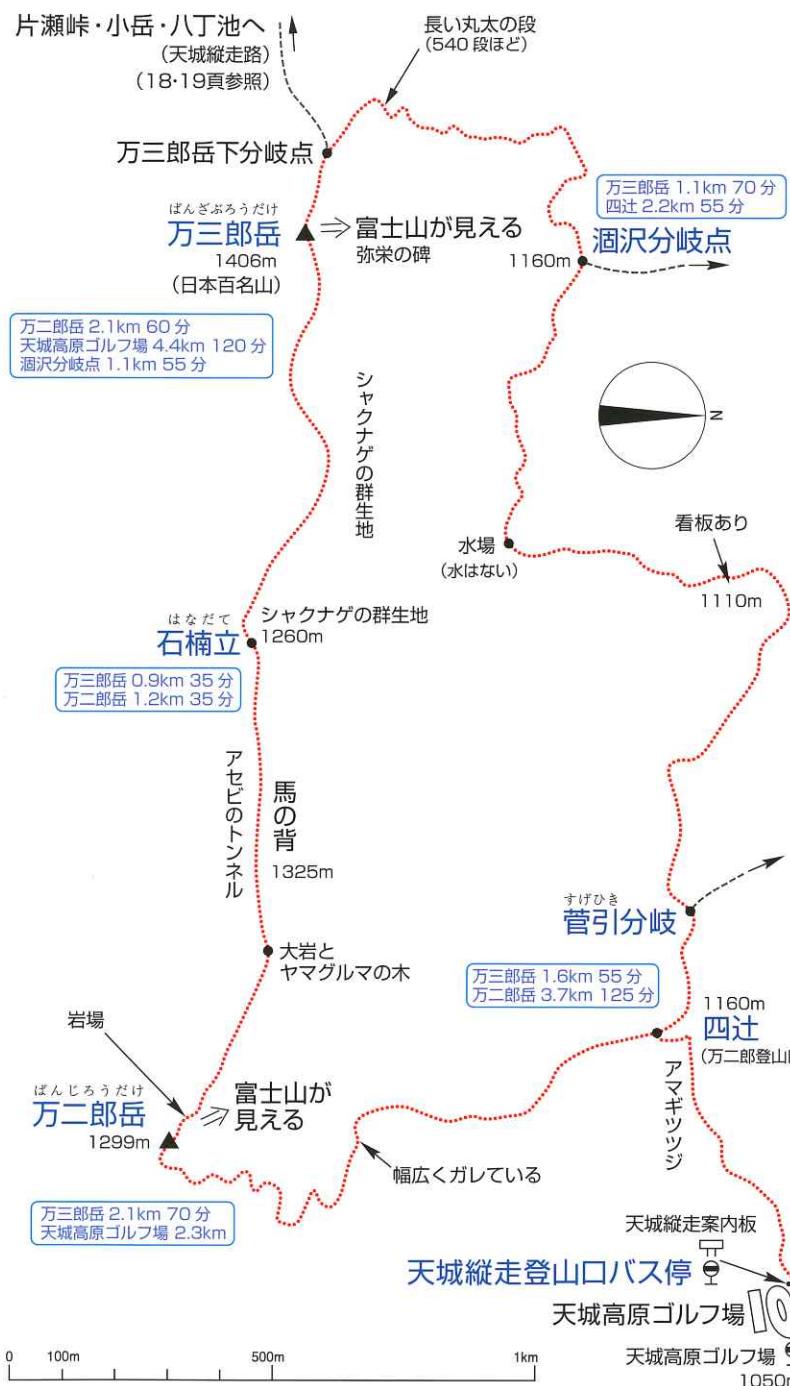
万二郎岳へと向かう。ブナやヒメシャラが自立つ自然林の中を行く。所々に道標があり、また、縦走路標識(青と黄色のプレート)があるので迷うことはない。樹林帯を緩やかに登り、かつての台風で大きくガレた沢を渡る。少し急になった道をジグザグと登ると1時間くらいで万二郎岳の山頂に着く。樹木に覆われた何の変哲もない頂きである。万三郎岳へ向かって岩の多い急斜面を下ると展望のよい岩場に出る。東伊豆から南伊豆に伸びた海岸線や三筋山、正面にこれから向かう馬の背、その肩に万三郎岳がのぞいている。晴れていれば北側に

富士山が望める。ぐんと下って登り返すと馬の背。大きな岩の上、通称「関所」から振り返ると、万二郎岳や遠笠山、ゴルフ場が見える。

長いアセビのトンネルを抜けると荒れた急な下り。十分注意して下ろう。下り切ると石楠立。この付近からアマギシャクナゲの群落が始まっている。ブナの林に混じってピンク色のシャクナゲが迎えてくれる。

シャクナゲの花を愛でながら登りきると万三郎岳の山頂に出る。樹木に覆われた山頂北側の樹木の切れ目から富士山が望める。帰りは、かつては山頂から涸沢分岐点に直に下る道があったが、今はシャクナゲの保護のため、迂回路ができる。山頂から片瀬峰に向かって10分ほど行った先に万三郎岳ト)もあるので迷うことはない。

◆伊東駅発天城高原ゴルフ場行					
—天城東急リゾートシャトルバス—					
《通年》					
7:55	10:10	14:10	15:05	16:35	
◆天城高原ゴルフ場発伊東駅行					
《通年》					
8:16	9:00	11:15	15:15	16:10	17:40
◆運賃: 1000円 冬季ゴルフ場が休業(クローズ)時は要確認					
●バスのお問い合わせは 新東海バス ☎0557-37-5121					
H26.7.1改正					



▲ブナ林(万三郎岳下分岐点)

天城縦走路の案内板を見て杉・桧の林に入る。木橋を渡り堰堤から階段を上がり平坦な道を20分足らずで四辻(万二郎登山口)の三差路。万二郎岳55分の道標がある。シャクナゲコースは、ここから万二郎岳へ万三郎岳へと周遊コースなので、どちらから廻ってもよいが、ここでは四辻から左に入り万二郎岳へと向かう。

万二郎岳へと向かう。ブナやヒメシャラが自立つ自然林の中を行く。所々に道標があり、また、縦走路標識(青と黄色のプレート)もあるので迷うことはない。樹林帯を緩やかに登り、かつての台風で大きくガレた沢を渡る。少し急になった道をジグザグと登ると1時間くらいで万二郎岳の山頂に着く。樹木に覆われた何の変哲もない頂きである。万三郎岳へ向かって岩の多い急斜面を下ると展望のよい岩場に出る。東伊豆から南伊豆に伸びた海岸線や三筋山、正面にこれから向かう馬の背、その肩に万三郎岳がのぞいている。晴れていれば北側に

富士山が望める。帰りは、かつては山頂から涸沢分岐点に直に下る道があったが、今はシャクナゲの保護のため、迂回路ができる。山頂から片瀬峰に向かって10分ほど行った先に万三郎岳ト)もあるので迷うことはない。

樹林帯を緩やかに登り、かつての台風で大きくガレた沢を渡る。少し急になった道をジグザグと登ると1時間くらいで万二郎岳の山頂に着く。樹木に覆われた何の変哲もない頂きである。万三郎岳へ向かって岩の多い急斜面を下ると展望のよい岩場に出る。東伊豆から南伊豆に伸びた海岸線や三筋山、正面にこれから向かう馬の背、その肩に万三郎岳がのぞいている。晴れていれば北側に

富士山が望める。帰りは、かつては山頂から涸沢分岐点に直に下る道があったが、今はシャクナゲの保護のため、迂回路ができる。山頂から片瀬峰に向かって10分ほど行った先に万三郎岳ト)もあるので迷うことはない。

樹林帯を緩やかに登り、かつての台風で大きくガレた沢を渡る。少し急になった道をジグザグと登ると1時間くらいで万二郎岳の山頂に着く。樹木に覆われた何の変哲もない頂きである。万三郎岳へ向かって岩の多い急斜面を下ると展望のよい岩場に出る。東伊豆から南伊豆に伸びた海岸線や三筋山、正面にこれから向かう馬の背、その肩に万三郎岳がのぞいている。

9 天城縱走

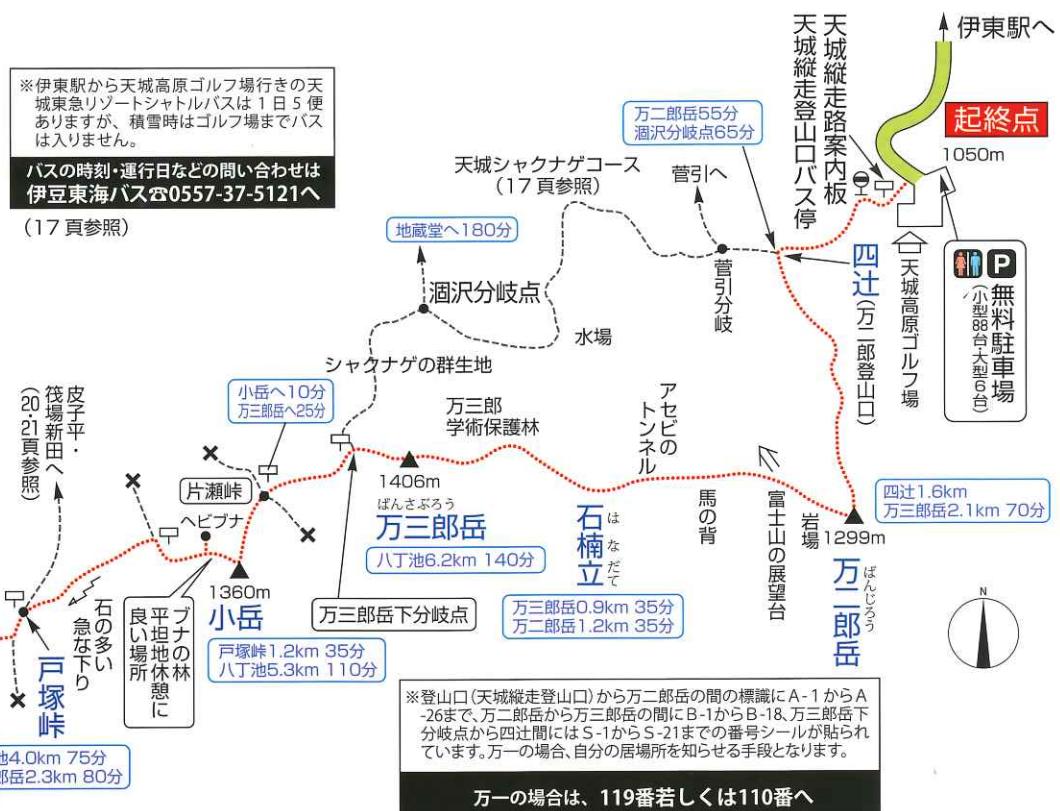
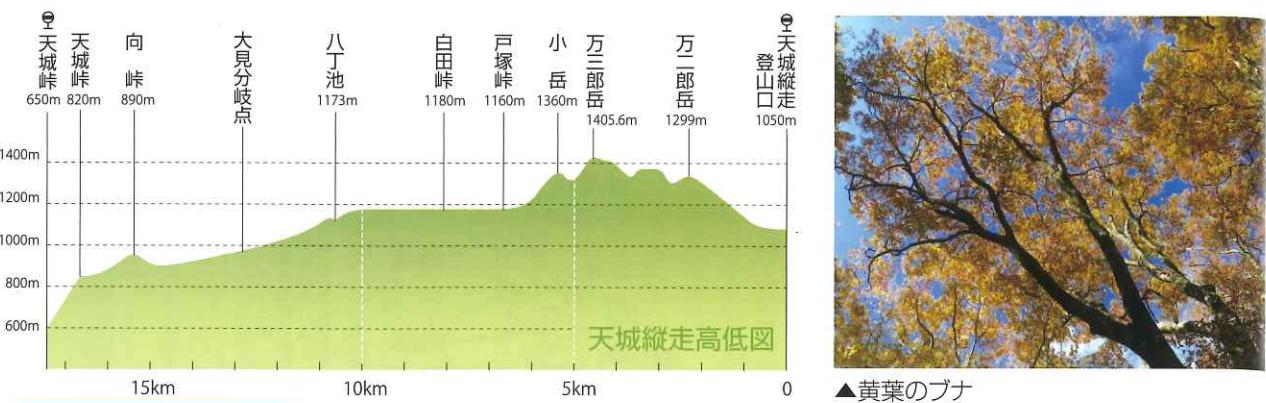
天城連山の尾根万二郎 天城縦走コースの起終点は天城縦走登山口と天城峠である。図で解るように、ゴルフ場側の方が多いくらか楽である。交通の便からもゴル場から登る人が多い。

その上、木の根が張っていて歩きにくい下りだ。平坦な道になると戸塚峠。案内図とベンチがあるので一休みしている。右に下る道は皮子平へ下るコース。体力と時間が許せばそのまま下る。0頁「皮子

○バスのお問い合わせは
伊豆東海バス
☎ 0557-37-5121

天城縦走路の案内図から人工林の中に入り、万二郎岳から万三郎岳、万三郎岳下分岐点までのコースは16頁「天城シャクナゲコース」を参照。
シャクナゲコースと分かれ、万三郎岳下分岐点の案内図から左に片瀬峠に向かう。道標・案内図はこの先、各時にも設置されているので自分のいる位置が確認できて安心でさる。ブナ林を下り10分くらいで片瀬峠。案内板がある。ブナ林を行くとすぐ右へへびブナへの入口。素直に伸びたブナと違いくねくねとへビの様に曲がっている特異なブナである。戸塚峠に向かうと下りがきつくなり、ブナに湿じってヒメシャラも目立つようになる。足元には石も多く、積雪時は運行されないので注意が必要。(17頁参照)

白田峠までは起伏が少なく歩き易い。ブナやヒメシャラに混じってアセビが自立つ。白田峠を過ぎるとカエデも多くなり、初夏には日に染まるような新緑、秋には燃えるような紅葉が楽しめる。
与市坂への分岐を右に見て緩やかに下り、「下り八丁池歩道」の入口を見る。とすぐに八丁池に飛び出す。八丁池の詳細は34頁「八丁池」または「野鳥の森・八丁池」を参照。
トイレから展望台を往復したら少し下って佐賀野入歩道・「上り御幸歩道」に入り天城峠へと向かう。34頁「八丁池」の逆コースを行くことになる。天城峠のバス停まで2時間はかかる。万一の場合、大見分岐点から水生地歩道を利用すること時間短縮ができる。
このコースは全長約17km、所要時間約8時間の健脚向きコース。天城峠からのバスの終便も早いので、心して歩かなくてはならない。



かわ
こだい
いら

皮子平
かわこだいら

スギ林の中に、ひときわ太くて立派な巨木・精英樹がある。精英樹とは、すぐれた特性を持つ優良樹のことで、天城山中の植林されたスギは、この精英樹から採ったタネから生まれたものである。

アマギシャクナゲが目立つようになると、炭焼窯跡がいくつかあり、スギ林を抜けると前に見送った林道の戸塚歩道入口に出る。「筏場新田9
戸塚歩道入口」の道標がある。

帰りは前に歩いた筏場林道を下るかまたは軽石林道を下ってもいい。ほぼ一本道で分岐さえ間違えなければ筏場新田に出る。国土地理院の2万5000分の一の地図は必携だ。

①とほ逆に天城が誇る
ブナを見て、ヒメシャラ
の若木の林から樹林帯を
西皮子平へ。ゆうなれば
西と東の皮子平を探索し
て八丁池へ戻るコースで
ある。時間に余裕があれ
ば戸塚歩道にあるスギの
精英樹を見てきたい。

八丁池から45分で白田^峠。起伏の少ない道は更に30分ほどで戸塚^峠のまま進めば小岳を経由して万三郎岳・万二郎岳へ向かう天城縦走ルートである。皮子平へは左の道を下る。皮子平の火口壁の斜面の道で、ブナやヒメシャラに覆われた自然林である。自然林の斜面には苔蒸した岩がゴロゴロ転がっている。峠から15分で東皮子平の分岐。真っすぐ行くと戸塚歩道で筏場林道への道。
① 参照。

タなどの小灌木が生えている。初夏に訪れると、西皮子平を囲む山肌にはマメザクラが咲く。

シカの防護柵を右に見て進むとブナやヒメシャラ、カエデなどの樹林帯に入る。相変わらず苔蒸した岩が多く、ロープ柵に導かれて道なりに進むとアナに混じってヒメシャラの若木の見事な林が続いている。

その先に天城が誇るブナの巨木があり、この辺りが東皮子平である。

を経由する（往復約20歳、約7時間20分）ルート。二つは八丁池口から（往復約5時間15分）のルート。

① 筏場新田からのルート

距離・時間共に長く、陽が短い季節にはとてもキツいコースである。年間を通して、このコースを利用する人は少ない。コース上には道標が数ヶ所しかないで地図を頼りに歩かなくてはならない。

① 筏場新田からのルート

皮子平へのルートは、二つある。一つは筏場新田から筏場林道を経由する（往復約20歳、約7時間20分）ルート。二つは八丁池口から（往復約5時間15分）のルート。



スで28分、終点で下車。県道を上り小嵐橋から左に筏場林道に入る。舗装された道を右・左にわざり田を見ながら上って行

車は通行止めのため車利用の場合
は、ここ駐車して歩くことになる。
ここから皮子平まで約8棟ある。
簡易舗装された道を少し上ると最
初の林道分岐。真っすぐ行くのが筏
場林道。車止めのある右は整石林道。

緑の季節や紅葉の季節には、その美しさに目を奪われる所がある。唐沢橋、富士見橋（ゲートから約4棟地）などの橋がチェックポイントになるのを注意して歩こう。

軽石林道と合流する三差路（ゲートから約5棟）辺りから晴れていれば富士山が望める。

分岐を左に折れると、すぐにかつての軽石の採石所跡の広場。すぐ上に戸塚歩道の入口がある。帰りはここに帰つてくる。

林道を更に上る。戸塚林道を左に見送り、なおも進むと棚沢橋の手前の広場に出る（ゲートから約7棟）。橋を渡つた左に道標。皮子平まで30分である。

間伐されたヒノキがそのまま放置されている林を通り、涸れた棚沢を渡つたら右へと登る。樹林帯を道なりに登るとスギ林になり道が緩やかになると左下に水溜りが見える。通称「幻の池」と呼ばれ、イノシシのヌタ場となつてている。

周辺の岩が緑色に苔蒸し、かつての炭焼き窯跡も目につく。

ロープ柵が見られるようになると皮子平だ。前がパッと開け、明るい平地に出る。西皮子平である。

かつての皮子平火山の噴火口の一つで、周囲は樹木に囲まれて丸く建み、アセビやカマツカ、ミヤマイボ

天城の自然が凝縮された、とつておきの秘境



11 湯道 熊野山33観音めぐり

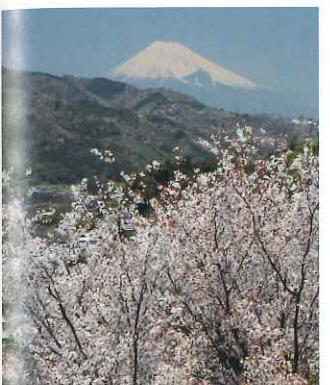
コースタイム(参考) 所要時間: 約1時間10分~2時間



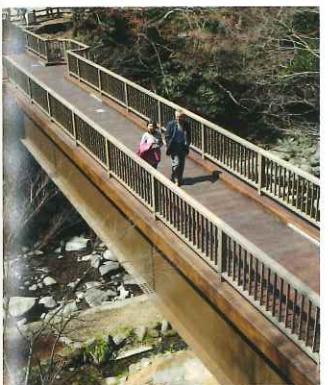
▲天城神社のコマ犬



▲熊野山 33 観音



▲さくらの里公園



▲しろばんばの碑

多くの文人墨客が訪れた湯の里・天城湯ヶ島温泉には、素敵な出会いが待っている「湯道」という散歩道がある。かつて里人や文人たちが共同湯へ通い、想をめぐらせた小道である。中でも幼い頃、この地に暮らした作家・井上靖の名作「しろばんば」の舞台となつた湯処である。

修善寺駅から昭和の森会館行き、湯ヶ島温泉行き、河津駅行きのバスで29分、湯ヶ島温泉口で下車。車利用の場合は天城会館に停めるといい。木曽屋の角から湯ヶ島温泉への車道を入るとすぐに「湯道」の入口。自然石の案内標から小道を下ると水路のある分岐。

水路に沿って右へ行き「木漏れ日」から下るとなまこ壁の美しい旅館の先に「湯道」の記念碑がある。バス道に出た所が西平橋。橋の下に犬猫専用の温泉がある。近くには文人や里人が通ったといいう「西平の湯」(現河鹿の湯)と川端康成ゆかりの温泉宿「湯本館」がある。河畔に立ち並ぶ温泉宿を見ながらバス道を行くと出会い橋の一つ猫越川にかかる「女橋」があり橋を渡った先には本谷川にかかる「男橋」がある。猫越川と本谷川が出会い、狩野川となって流れ出すこの地は、男と女が巡り会い、心結ばれて新しい人生を歩み始める出会いにも似た所である。夫婦が改めてここで出会いなおすと、より深く結ばれるといわれている。

元湯川屋の前から石段を上がり「梶井基次郎の文学碑」を見てこよう。世古橋を渡って瑞祥橋の手前から本谷川の上流へと歩き、つり橋を渡って水路沿いの細い道を再び車道へ出る。少し先を左に下ると田舎い橋の男橋の入口。階段を上がれば起

こに井上靖の詩碑と墓がある。奥には小説「しろばんば」で出てくるおじい婆さん(本名・井上かの)の墓もある。車道を下ると若山牧水の歌碑。33番を見てバス道に下り左に行けば起点の湯ヶ島温泉口に着く。このままバス道を横断し天城神社へ向かう。

「さくらの里公園」へ向かおう。

33観音めぐりとしろばんばの里をめぐる

点の湯ヶ島温泉口のバス停。「熊野山33観音めぐり」を併せて歩くなら、水路沿いの歩道を元旅館「眠雲閣落合」の下をくぐって前に通った分岐を過ぎ、バス道に出て成就院へ。

天城神社にはユーモラスな顔をした狛犬がいる。その昔、布拉リと湯治に訪れた石屋が彫っていたもので、一匹とも天城の山をにうんでいた。ここに置かれて以来、恐ろしい天城の山犬がいなくなったという。

天城神社には母七恵の実家、浅田金物店(廃業)は洪作と最も仲が良かった幸夫の家。

「上の家」は母七恵の実家。
井上靖旧居跡はおじい婆さんと暮らした十歳の跡でアスナロ(イヌマキ)の木と「しろばんばの碑」がある。

☎ 055-83-5476

事前に予約が必要。

13 吉奈々船原遊歩道

吉奈温泉は奈良時代に行基上人が発見したという伊豆でも古い温泉地である。泉質はよく暖まるという昔の名で「子宝の湯」として特に有名。修善寺駅から湯ヶ島温泉行き、昭和の森会館行き、河津駅行きのバスで21、23分、吉奈温泉口で下車。吉奈温泉まで入るバスの便もあるが極めて少ない。

さる。2段の托鉢用の鉢で青銅製としては日本で一番目に古いものとされてゐる。仏像の拝觀は寺に頼めば可能（志納）。

徳川家康の側室お万の方が吉奈温泉に入浴し、この寺に子宝祈願に訪れたところ、無事、紀伊大納言頼宣と水戸中納言頼房を生んだという。頼房は後の水戸光圀（テレビでおなじみの水戸黄門）の父にあたる人である。

今でも「子受け守り」や「安産守り」を求めて子授け祈願に訪れる参拝者は絶えない。

参りしてこよう。神亀元年(724)に行基上人が創建したと伝わる古社で多門天・持国天などの宝仏がある。というが、拝観はできない。

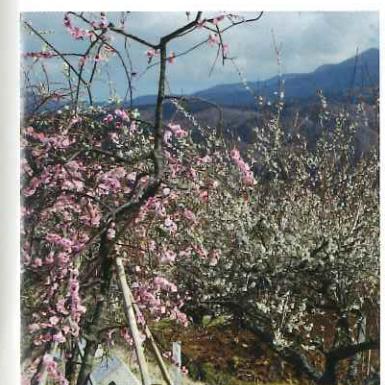
隣りが善名寺(日蓮宗)。神亀元年行基上人が建立した寺で、当時は七堂伽藍を連ねた巨刹であったが、後の大火で流失・大火で焼失し、現在の建物は大正10年に再建。

寺宝として行基作と伝わる本尊の

木造薬師如来座像（県指定文化財）ほか木造积迦如来座像（市指定文化財）・毘沙門天などの古仏像や、県指定の文化財「青銅仏餉鉢」などがある。仏餉鉢は口径20.9センチ、高



▲善名寺



▲月ヶ瀬梅林

のまま少し行くとまた石柱がある。前の石柱と同じ時に立てられたもので「右ハ船原道 左ハ山道」とある。右に灌木の中に入る下り。左に枝道を見て人工林の中をぐんぐんと下る。下る程に急になり、ジグザグと丸太の段が続いている。下り切ると広い道に出る。右に少し行くと左手の草原に入口にあつたものと同じ案内板がある。車道を左に道なりに歩き船原川にかかる湯端橋を渡れば船原温泉のバス停だ。

月ヶ瀬梅林までは片道20分くらいなので往復してこよう。起伏の少ない林道をしばらく行くと前が開け、シカ除けの大きなゲートがある。自由に入り出しきれるが、シカの食害からウメを守るためにものであるので開けたら必ず閉めることを忘れず。

1月～2月に訪れると展望台の周辺に植栽されたスイセンの花畠が満開となる。

○お問い合わせは
だウメは自方で買い取る。「観光梅もぎ」も行われる。もい
6月初旬には美ったウメをもぎ取
産の梅シロップ、梅酒などの即売が
行われる。入園には管理協力費として中学生以上大人300円、小学生100円が必要。

二つの温泉地を結ぶかつての生活道
伊豆一の広さを誇る月ヶ瀬梅林

A photograph showing a dense cluster of pink plum blossoms (ume) growing on a hillside. The blossoms are in full bloom, creating a vibrant pink canopy. In the background, more hills and mountains are visible under a clear sky.

のまま少し行くとまた石柱がある。前の石柱と同じ時に立てられたもので「右ハ船原道 左ハ山道」とある。右に灌木の中に入る下り。左に枝道を見て人工林の中をぐんぐんと下る。下る程に急になり、ジグザグと丸太の段が続いている。下り切ると広い道に出る。右に少し行くと左手の草原に入口にあつたものと同じ案内板がある。車道を左に道なりに歩き船原川にかかる湯端橋を渡れば船原温泉のバス停だ。

○お問い合わせは
だウメは自方で買い取る。「観光梅もぎ」も行われる。もい
6月初旬には美ったウメをもぎ取
産の梅シロップ、梅酒などの即売が
行われる。入園には管理協力費として中学生以上大人300円、小学生100円が必要。



▲月ヶ瀬梅林のスイセン畠

14 狩野城跡

狩野城跡は伊豆半島の中心部・伊豆市のほぼ中央に位置し、国道136号線・清流狩野川と柿木川との合流点に隣接する標高189mの小高い丘にある。狩野城は平安後期（1100年頃）より室町時代後期の15世紀末までの約300年間にわたり伊豆の豪族・狩野氏の居城で、今は柿木川、南側は北沢川とそれぞれなお明瞭に遺構を残す中世の山城である。東側は狩野川の断崖に、北側侵食された急斜面をもち、三方を遮断された天然の要塞である。展望も良く、田方平野から箱根連山、天城連山が望め、下田街道を監視することができた伊豆の南北を結ぶ要衝であった。城跡は標高189mの「中郭」を中心として北東方面に「東郭」と「出丸」、南方に「南郭」、西方に「本郭」と「西郭」を擁し、それらは大空堀や二重堀、堅堀などで仕切られ、その周辺には無数の土塁や堀切りなどがめぐらされている。

足利幕府、織田、豊臣、徳川幕府と數百年にわたり、御用絵師として活躍した狩野派は、この狩野一族から生まれている。

平成13年から16年にかけて、この周辺の森約16ヘクタールを狩野城跡として、遊歩道や花

木を植栽して整備してきた。併せて災害防止のため数箇所に谷止工が造られている。
城跡の遊歩道を利用して歩けば、歴史の息吹と四季折々の自然が楽しめる。

歴史の息吹と四季折々の自然が楽しめます。



▲狩野川畔から見た狩野城跡

山城の遺構が、築城千年近くも保存されている重要な史跡である。

狩野氏は祖・狩野維景(これかげ)が駿河の守を退任し、初め、市内田向に館を構えたが、その子・狩野維職(これもと)が伊豆守領使を務めるなど、軍事上の必要もあり要害の地を選んで、この地に移った。最初の城主は一代維職から三代維次(これつぐ)と思われる。

維景から五代の孫・茂光(もちみつ)は、その子・親光(ちかみつ)と共に源頼朝に従い、治承四年(一一八〇)石橋山の合戦で敗北自刃したが、子孫は鎌倉・室町両幕府に伊豆を代表する武将として仕えた。

明応二年(一四九二)からの北条早雲の伊豆侵攻の折り、城主狩野道一(じょういつ)は足利方に付き戦い、明応七年に敗れて開城した。その後、一族は小田原に移り、後北条氏の重臣として要職を歴任している。

室町時代中頃から絵師として栄えた、狩野派の初代狩野正信(まさのぶ)は、維景から十六代の孫である。

川が一望できる。上り切ってテーダ松の林を抜けると城山下の分岐。左にジグザグと上ると森林学習空間の森。南側から上がってきた道と合流して右に上ると出丸跡。この辺りうつそうとした森の中である。

丸太の段を下つて上り返し右に東郭を見送ると、すぐに左に丸太の段がある。上れば武将の靈を祀ったという題目堂。

前方に見える中郭が、この城跡の最高点である。周辺は芝生広場となっているのでお弁当を広げるには最適な場所である。戻って本郭跡から樹林帯を歩けばクヌギ林の四つ角にぶつかる。右へ行けばヤマボウシが植栽された広場で、眼下に田園風景が広がっている。雜木林を下れば桜ヶ洞の堰堤を越えて本柿木農村公園に出る。休憩舎で一休みしたら裾を捲く山道を辿つて城山下の分岐を過ぎ、そのまま真っすぐ行けば、前に通つた道を柿木橋へ下る。随所に道標があり、ぐるりと一周しても一度時間もあれば十分回つて来られる。

農村公園から市道を600㍍ほど行くと法泉寺の天然記念物のしだれ桜がある。3月下旬には桜まつりも催され、多くの花見客が訪れる。

伊豆の豪族狩野氏300年間勢力を奮った山城
狩野一族から御用絵師として狩野派が誕生

二重堀を備え本郭・西郭・南郭・中郭・東郭・出丸に区分される。中世山城の遺構が、築城千年近くも保存されていく重要な史跡である。

ら丸太の段を下る。急な丸太の段から振り返ると国道136号線と狩野川が一望できる。上り切ってテーダ松の林を抜けると城山下の分岐。左にジグザグと上ると森林学習空間の森。南側から上がってきた道と合流して右に上がりると出丸跡。この辺りううそうとした森の中である。

丸太の段を下って上り返し右に東



▲森の中の遊歩道



▲題目堂



▲中郭の広場



15 太郎杉歩道

太郎杉は天城一のスギで、幹回り973cm、高さ53m、樹齢450年の巨木である。静岡県のスギの巨木ランキングでも一位の河内の大杉(沼津市西浦市民の森)に次ぐ巨木で県の天然記念物に指定されている。

森の巨人たち・巨木100選(巨樹・巨木を考える会・講談社)にも選ばれている。

修善寺駅から昭和の森会館行き、または河津駅行きのバスで38分、昭和の森会館で下車。時間がない時は滑沢渓谷までバス(河津駅行きのバスで39分)で行つてもよい。

昭和の森会館は道の駅・天城越えとなつていて、会館のほかに伊豆半島ジオパーク天城ビジターセンター、レストラン、天城わさびの里(直売所)、竹の子があさんの店、井上靖旧邸、グリーンガーデン(シャクナゲの森)などがある。会館の中には森の情報館(無料)と伊豆近代文学博物館(有料)があるので歩く前に見学していきたい。道の駅の前にあるグリーンガーデン(入園無料)には、3月にはエドヒガンザクラの大木が薄ピンク色の花をつける。また、5月には500種・1万3000本のシャクナゲが次々と咲く。このほか季節の草花が沢山

植栽されているので、花好きには見逃せない所である。園内の遊歩道の展望所からは富士山も望める。

カエデが植栽された会館の庭先を突っ切る。秋の紅葉のシーズンには紅葉狩りの観光客で賑わう所だ。

中ほどに御礼杉の説明板がある。目の前のグリーンガーデン内にある御礼杉のことで、次のように書かれている。『天城山を徳川幕府が所有していた頃、「天城七木制」と言われる禁伐制度がありました。山付きの部落に雑木や下草を利用させた際、その開けた跡地に杉を植えるという森林保護を目的とした政策造林を行っていました。しかし、幕府の強制的な造林だったこともあり、不満を抱える村民の心情を和らげようとして御礼の杉である(御礼杉)と伝えられた当時の村名主が記録を残しています』

天城山にはこうした御礼杉がおよそ150本あり、県道の向側にある数本の杉大木もその一部です。古いものは樹齢200年以上を数えるものもあります』

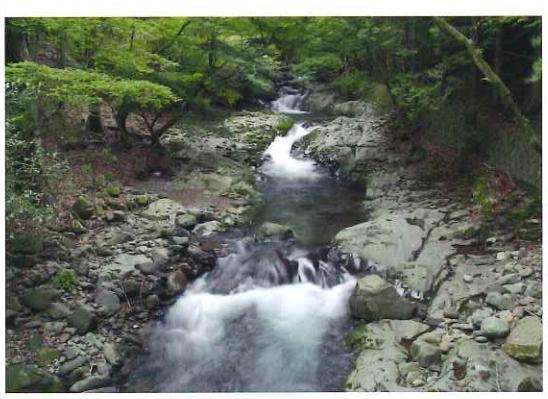
山神社を右に見て、樹林帯を行く小さな沢を渡って石段を上ると天城旧街道の説明板。



▲滑沢渓谷の紅葉



▲龍姿の滝



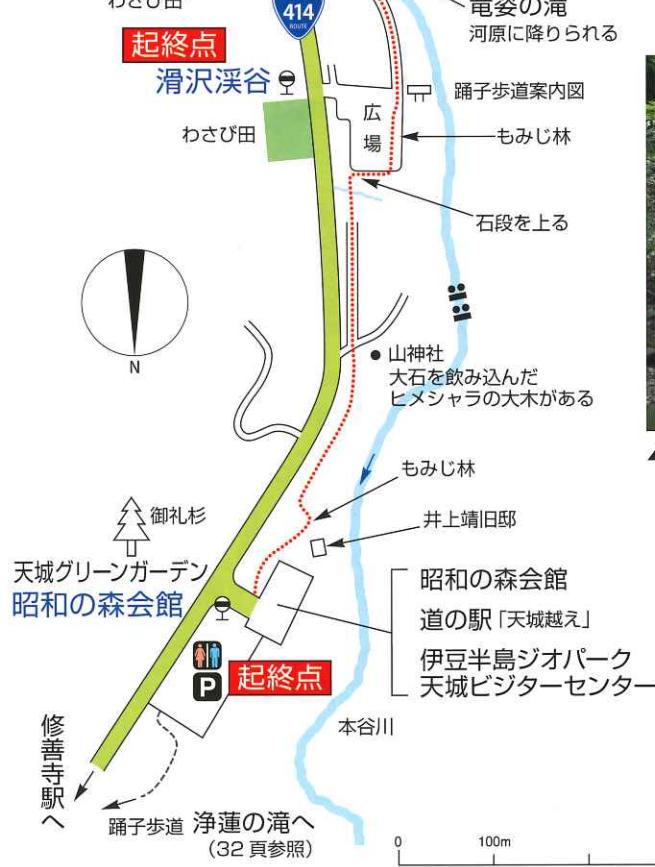
▲滑沢渓谷



▲太郎杉



▲太郎杉



一枚岩の美しい渓谷を巡り 天城一のスギの巨木・太郎杉へ

カエデが沢山植栽されている広場に出る。その端にある踊子歩道の案内図を見、右下に本谷川を樹間越しに

見ながら行くと滑沢渓谷の説明板がある。橋を渡ると正面に井上靖の「獵銃」の文学碑。

道は左右に分かれているので右へ行く。左の道は行き止まりだが、少し入った所は紅葉の名所なので、季節にはちょっと寄り道してもいい。

わさび田のすぐ先に滑沢川にかかる滑沢橋。上流を見ると一枚岩の上を滑るように流れの沢が見て取れる。下流を見ると流れによってできたポットホールがいくつか見られる。ポットホールとは岩の堆みに石が流れ込むと、水流で堆みの中で石が回転し、お互いに削れて、堆みが深くなり、石は丸くなる。これでできた穴を言う。ポットホール内に

水を飲まない方がよい。上流にわさび田があり、人の手で手を入れると切れるように冷たいた水が流れます。透き通った水

が流れ込むと、水流で堆みの中で石が回転し、お互いに削れて、堆みが深くなり、石は丸くなる。これでできた穴を言う。ポットホール内に

あつた玉石は激しい水流によって飛び出てしまつてないが、伊東市

トホールがあり、直径70cmの玉石が残っている。

滑沢川の下流で右手から流れ込む本谷川と合流した所に竜姿の滝がある。竜姿の滝へは林道から歩道があるので行ってみよう。透き通った水

やシカ、イノシシなどの動物が入っているので、手を入れると切れるよう冷たいた水が流れます。透き通った水

が流れます。透き通った水

17 八丁池 はっちょういけ

「天城の瞳」の愛称で呼ばれる八
池は標高1173mにある天城火
山の火口湖と言われていたが、最近

池であることがわかった。周囲がスズタケに覆われていたことから別名「青ズズの池」とも呼ばれ、天然記念物のモリアオガエルの産卵地としても知られている。

（870番）あいの山からついたむ言
われるが、実際は「800」がほりである。

なコース「上り御幸歩道」を紹介。
修善寺駅から河津駅行きのバスで
43分、天城峠で下車。新天城トンネ
ルに向かって左側の山道を上る。ダ
ムを越えて急な階段を15分足らずで
旧天城トンネルに出る。今度はトン
ネルの右側から急な山道をジグザク
と上ること25分で大きなブナの木
がある天城峠の分岐。右に行けば二
本杉峠(旧の天城峠)を経て猪越岳・
仁科峠方面の伊豆山稜線歩道。八丁
池へは左に行く。杉や桧の人工林、
ブナやヒメシャラの自然林がおり混
じった樹林帯は、新緑の頃、紅葉の
頃に訪れると、天城の自然を満喫で

峠からしづかへはちよっこひぐ
て長い木の階段を上つて下ると30分
ほどで向峠。この後はほぼ平坦な道
を快調に歩ける。よく見れば樹の間
から富士山も望めるところがある。

て石が多く歩きにくい所がある。相変わらずの樹林帯を上ると野鳥の森コマドリ歩道の分岐。真直ぐアナやヒメシャラの樹林帯をさうに上り、アセビが多く見られるようになると寒天林道（八丁池遊歩道）に出る。左に少しでトイレのある分岐。トイレの分岐を左に一分で見晴台がある。見晴台に上るとアナの林に囲まれた八丁池が望める。晴れていればアナの林の上に富士山の頭が望める。

A scenic view of a lake surrounded by dense green trees and misty hills. The foreground is filled with lush green foliage, while the background shows a calm lake reflecting the surrounding forest. The sky is overcast with mist, creating a serene and somewhat mysterious atmosphere.

（1930）6月に、この地を訪れた昭和天皇の行幸記念碑がある。八丁池は天城のハイキングの中で、最も人気のコースで、いつ訪れてもハイカーの姿がある。

池を一周する遊歩道があったが、モリアオガエルの保護のため半分ほどで通行止め。池を左に回り込んだ所に龍がまとわりついた水神さんが祀られている。反対側には弁財天も祀られている。そのまま下ればすぐに白砂林道に出る。



▲天城の紅葉



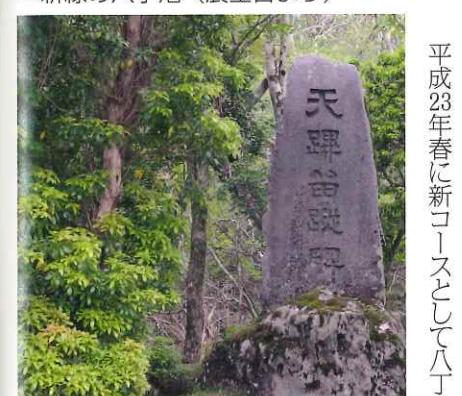
▲大ブナ（下り八丁池歩道）



(丁池步道經由



▲新緑の八丁池（展望台より）



▲昭和天皇行幸記念碑



八丁池畔

旧天城トンネルから樹林帯を散策
森林浴を楽しみながら天城の瞳を尋ねる

19 二筋山遊歩道

天城のブナ・ヒメシラの森林から風車と
360度の大展望地・草原の三筋山へ

線に連なる風車と天城連山が手に取
るように望める。

下山コースは二つある。一つは細
野高原から二つの湿原を見て伊豆稻
取駅に下るおよそ2時間30分のコ
ースと、もう一つは大池高原から見高
入谷を経て見高弁天町へ下り今井浜
海岸駅へ出るおよそ3時間のコ
ース。

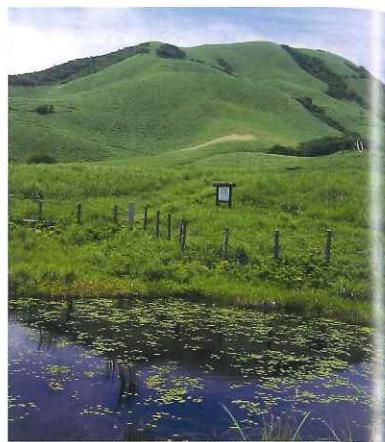


▲ヒメシラの林

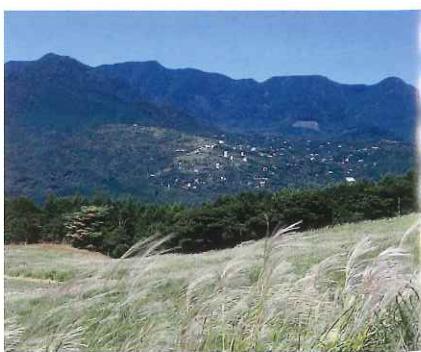
コースタイム(参考)
所要時間／約5時間55分

今井浜海岸駅	見高弁天町	見高人谷	大池高原	三筋山	展望	上佐ヶ野	八丁池口	バス	修善寺駅
10分	50分	70分	60分	45分	30分	35分	25分	30分	73分
10分	60分	80分	70分	40分	35分	40分	20分	25分	
伊豆稻取駅	中山温泉	細野高原	上佐ヶ野林道	八丁池口	ピク(1127m)				
	120分								

0 500m 1km 2km



▲桃野湿原から三筋山を望む



▲細野高原から天城山を望む



と右側が開けた明るい
道となり、三筋山方面
が望める。ブナやヒメ
シラの樹林帯を上り
切るとブナの巨木があ
るピークだ。
ここからはブナやカ
エデが繁る樹林帯の下
り。ヒメシラの林を下
ると上佐ヶ野林道に出
る。

修善寺駅から八丁池口行きのバス
で一時間13分、終点で下車。八丁池
口行きのバスは季節運行のため注意
のこと（37頁参照）。

八丁池口でバスを降りたらスギ・
ヒノキ林の舗装された寒天林道を
上って行く。左に大きくカーブした
所を右に折れて、道なりに進むと分
岐。案内図と道標がある。ここに戻
るように上って行く。開けた所から
灌木林に入り、アセビの林を抜ける



林道の広場に出ると
風力発電機の巨大な風
車が目に飛び込んでく
る。ここからは風力発電所エリア建
設に伴い造られた舗装道路（一般車
通行不可）をしばらく歩き、以前か
らの遊歩道に戻る。これを三筋山ま
で三度繰り返すことになる。

途中の展望所では三筋山へと広が
る起伏のある草原と稜線に連なる風
車、東伊豆の海や伊豆大島が望める。
小さなピークを越え、舗装道に入
り草原の遊歩道を辿る
と草原はますます広が
り、伊豆一を誇る草原
・三筋山の山頂に着く。

山頂は360度の大展
望地。細野高原や稻取
のゴルフ場、伊豆七島、
爪木崎、南伊豆方面の
山並み、振り返ると稜
線に連なる風車と天城連山が手に取
るように望める。

ここまで車で上って来れる。海へ向
かって少し狭い舗装道を下る。休憩
舎の先の分岐を左に下り、左からの
道と合流して、そのまま右に下る。
中山一号湿原、二号湿原では珍し
い湿原植物が見られるので寄ってい
こう。

中山一号湿原、二号湿原では珍し
い湿原植物が見られるので寄ってい
こう。
わらび狩りの受付所とパラグライ
ダーの基地・伊豆ライトハウスが
ある分岐から左に曲がり、舗装され
た林道を下る。山神社の先、庚申塔
がある分岐から左に駅への近道を下
れば駅は近い。

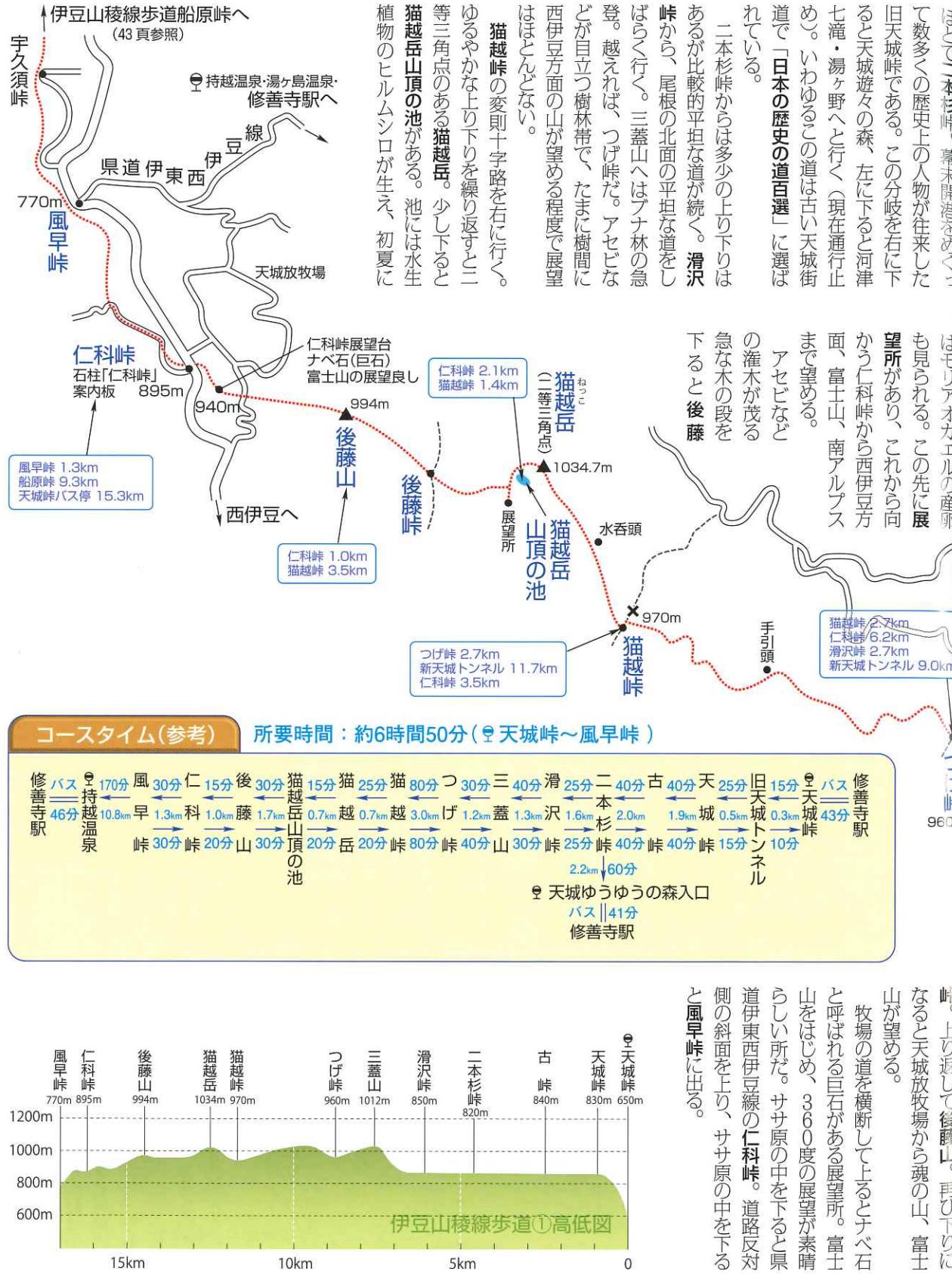
このコース、駅までの距離が長い
ので、陽の短い冬場は避けた方がよ
い。途中からタクシーを呼ぶことも
可能だが、どこまで迎えに来てくれる
かは相談。

20 伊豆山稜線歩道(1)

さんりょうせん

伊豆半島の中央部にH字形をして
ぐるりと連なる天城分水嶺は6市町
にまたがり、総延長約60kmある。北
東部の天城山（万三郎岳）は日本百
名山に選定され、多くのハイカーが
訪れるが、北西部から北に伸びた伊
豆山稜線は交通の不便さもあって訪
れるハイカーは少ない。

岳、仁科峠、魂の山、
棚場山、達磨山、金
冠山を越えて修善寺
自然公園まで42棟あ
り、一気に縦走する
のは難しいので、途
中のポイントから麓
に下って宿泊する必要がある。麓ま
での往復は、距離が長いので宿から
はタクシーなどを頼むことになる。
修善寺駅から河津駅行きのバスで
43分、天城峠で下車。新天城トンネ
ルから急坂を登り旧天城トンネルに
出たら、更にトンネル脇から天城
峠に登る。登り切る
と丁字路。左に行く
と八丁池・天城縦走
コース。山稜線歩道
は右に行く。稜線の
北面を行く平坦な道
で古峠を通り天城峠から一時間20分



山。上り返して後藤山。再び下りになると天城放牧場から魂の山、富士山が望める。

牧場の道を横断して上るとナベ石と呼ばれる巨石がある展望所。富士山をはじめ、360度の展望が素晴らしい所だ。ササ原の中を下ると県道伊東西伊豆線の【科峰】。道路反対側の斜面を上り、ササ原の中を下る」と風早峠に出る。



最も天城らしいブナ・ヒメシャラの樹林帯から、ササ原の広がる西天城高原へ

21 伊豆山稜線歩道(2) さんりょうせん

風早峯・船原景

広々とした解放感あふれるササ原ヒアセビのトンネル
春にはマメザクラに包まれる稜線を歩く



風早景

前項の伊豆山稜線歩道⁽¹⁾の終点を風早峠としたが、ここに宿泊施設はないので、持越温泉まで下らなければならない。距離にして 10・8km^陸もあるので続いて歩くのはちょっときつい。宿の車かタクシーを頼まなくてはならない。風早峠から船原峠を歩く場合も逆に持越温泉、または宿泊先から宿の車かタクシーを利用しなくてはならない。

息しているニホンジカやニホンイノシシ、ノウサギ、タヌキなどの生活圏を道路が分断してしまうことがないよう、けもの道のあった所に動物移動用のトンネルを道路下に設置したものである。これにより、動物の生活圏の確保と交通事故を防ぐことができる。カルバートは縦横4.5mのボックスカルバート（3ヶ所）と直径2.5mのパイプカルバート（6ヶ所）の2種類がある。

や腰に故障のある人にはおすすめで
きない。

また、海岸に近い稜線なので季節
風が強く、晚秋から早春にかけては
防寒衣類と風除けの衣類も必要。2
～3月には雪の降ることがある。
おすすめはマメザクラやアセビの
咲く4月～新緑の5～6月、紅葉シ
ズンの11月。

風早峠から道路に平行した尾根道
を行く。途中から林道となり宇久須
峠へ。休憩舎と案内板、石仏がある。
ここからしばらくササ原の草原に続
く木の段の上り。振り返ると、猫越
岳や後藤山の山並み、天城改文易の

しばらく上って三差路から右に下ると、ササ原の草原と別れ小さな十字路を過ぎると樹林帯に入る。200段近い木の段を上り、アセビのトンネルに入ると**魂の山**。案内板の標高993mは933mの誤り。魂の山からは下り。木の段の途中から富士山をはじめ、これから向かう達磨山方面が望める。

右下に道路が近づいてくると**土肥峠**の分岐。右上に木の段を上るとボックスカルバートがある。カルバートの先は**林道達原線**で持越鉱山

稜線の各峠は、かつて湯ヶ島と西伊豆とを結ぶ生活道路であつたため、その名残の道や道標などが残されている。
土肥峠からはしばらく道路に平行した歩道が続く。木の段が多く、上つたり下つたりの繰り返しが多い。
南無妙峠には休憩舎とベンチ、「南無妙法蓮華經」と彫られた石碑がある。かつてここで行き倒れた夫婦の供養のために村人によって建てられたものという。

山頂。木の段を下るひ船原峠までは
緩い下り坂。旧国道136号線に出
ると休憩舎と案内板がある。反対側
に山稜線歩道の達磨山方面の上り口
がある。ここにはバス停がないので
大曲茶屋までおよそ3徒步かなくて
はならぬ。

22 西伊豆歩道（通り崎コース）

西伊豆歩道は伊豆西海岸の大瀬崎（沼津市）から西伊豆町堂ヶ島までの海岸線に作られた八つの長いコースである。伊豆市内を通るコースの一つは通り崎コースである。

おいた方が良い。

起點は「肥港」であるが、土肥から港までを追加して通り崎コースとして紹介した。

館行きのバスで51分、土肥温泉で下車。
車利用の場合は、松原公園の市営駐車場に停めて、終点の八木沢からバスで戻ることになる。バスの便はあまりよくないので、事前に調べて

A large, vibrant floral display in a park setting, featuring a variety of flowers in shades of red, yellow, and white, arranged in a circular pattern. In the background, there are palm trees and a paved walkway where people are walking.

A wide-angle photograph of a massive, circular flower bed in a park. The central feature is a large, stylized white airplane, possibly a Boeing 747, positioned above the letters 'JAPAN AIRLINES' and 'JAL'. The entire word 'JAPAN AIRLINES' is written in both English and Japanese characters (Japan Airlines). The flower bed is composed of various colored flowers in concentric rings, with a dense green lawn surrounding the base. In the background, there are tall evergreen trees and a paved walkway with some people walking on it.

▲世界一の花時計



▲松原公園（若山牧水像）

元臨海学校のフェンスから左に曲がり、急な丸太の段を上り切ると小さな切通しの峠。ここに道しるべの石碑がある。

峠からは丸太の段の下り、女竹や灌木から竹藪になり、港から30分で富士見園地（休憩舎）と文政の道標（道しるべ）との説明板がある。

それによると、この道は、現在の海岸線を走る国道が出来る前は、この山道が唯一の交通の要所であった。古く江戸時代には、旅人が道に迷い、

温泉やグラの所には花登崖の歌碑もある。マツ林を抜け海岸遊歩道を壬肥港へ。火振川のバス停の先に西伊豆歩道通り崎コースの案内板がある。左の山道へ入ると、簡易舗装された急な坂を右に大きくカーブしながら上っている。右下に国道、左にみかん畑を見ながら灌木の中を行くと、やがて平坦で歩きやすい道になる。枝道もあるが真っすぐ進む。右手、海側の木立の間から富士山が望め

「経」と大きく彫られているほか、建立した長者の名前もある。

しばしば追いはぎに遭い困っているのを知った地元八木沢集落の長考が、私財を投じて、この石道標を建てたと言う。それ以来、道に迷う旅人もなくなり、追いはぎも出没しなくなり、安心して通れるようになつた。石碑には「南無妙法蓮華経」と書かれている。

山牧水の歌碑、島木赤彦の歌碑、大場美夜子の句碑、井沢満の青春の碑などがあり、近くの松原大橋の歩道橋には若山牧水の像もある。大正7年に初めて土肥温泉を訪れた彼は、土肥温泉をこよなく愛し、何度も訪れて、只山の歌を残している。

コースタイム(参考)

修善寺駅	バス	八木沢	15分	富士見園地	30分	土肥港	20分	バス	修善寺駅
	55分	20分	30分	20分		51分			

●所要時間：約1時間50分

西伊豆歩道小土肥コース

起終点 土肥温泉

西伊豆歩道 通り崎コース案内板 古川

起終点 ハ木沢

0 100m 500m

西伊豆歩道丸山コース (47頁参照)

清水港 分へ 清水 港へ 銚子漁港へ

65分へ

フェリー乗り場 土肥 港

通り崎 展望所 フィッシングパーク TOI 元臨海学校

通り崎 伊東園ホテル 土肥 案内板

136

休憩舎 横断注意 古い道しるべ(石碑)

水道小屋 富士見園地 文政の道しるべ(石碑)

八木沢トンネル 天神神社

西伊豆歩道 通り崎コース案内板 古川

松原大橋 足湯 温泉ヤグラ

土肥大橋 土肥特産市「ありがとう」

島木赤彦歌碑 若山牧水歌碑 大場美夜子歌碑

松原公園 世界一の花時計

屋形共同浴場 土肥海水浴場

土肥金山 コンビニ 土肥マリンホテル 大江戸温泉物語

通り崎バス案内板 湯の花亭 明治館

火振川 海花亭いすみ

コンビニ 湯の川 かんつき 磐付天正金鉱

N

▲文政の道しるべ

おきなおうな 盆酒左衛門の図(天神神社)

▲翁媼酒を楽しむ図（天神神社）

23 西伊豆歩道(丸山コース)

西伊豆歩道丸山コースは、通り崎コースと合わせても4歳程度なので1日コースとして歩くことはできる。

起点の八木沢までは修善寺駅から松崎行き、長八美術館行きのバスで55分。車利用の場合は、丸山スポーツ公園の駐車場を利用して、帰りはバス利用で戻ることになる。

海岸方面に行くと八木沢漁港、西伊豆の明るい海と船だまりのある小さな漁村風景が見られる。浜橋、君沢橋の小さな橋を渡る。

防波堤につけられた舗装道が海岸線に沿って延びている。途中、左手に**丸山スポーツ公園**がある。ここは土肥桜とハマボウの群生地として知られている花名所である。1月には白と薄ピンク色の土肥桜が、7月にはハイビスカスに似た黄色いハマボウが咲く。

海岸に沿って15分ほど進むと左手に急な石段がある。約1-30段ほど長い階段を上り切り、小さな分岐を左に入ると**丸山園地**。山隋大権現の鳥居と小さな社があり、**丸山城跡**の解説板がある。

「この城は北条氏に属した土肥・高谷城主富永氏の出城とされ、西に

西伊豆歩道丸山コースは、通り崎コースと合わせても4歳程度なので1日コースとして歩くことはできる。

起点の八木沢までは修善寺駅から松崎行き、長八美術館行きのバスで55分。車利用の場合には、丸山スポーツ公園の駐車場を利用して、帰りはバス利用で戻ることになる。

通り崎コースの終点・八木沢から海岸方面に行くと八木沢漁港。西伊豆の明るい海と船だまりのある小さな漁村風景が見られる。浜橋、君沢橋の小さな橋を渡る。

防波堤につけられた舗装道が海岸線に沿って延びている。途中、左手に丸山スポーツ公園がある。ここは土肥桜とハマボウの群生地として知られている花名所である。1月には白と薄ピンク色の土肥桜が、7月にはハイビスカスに似た黄色いハマボウが咲く。

海岸に沿って15分ほど進むと左手に急な石段がある。約130段ほど長い階段を上り切り、小さな分岐を左に入ると丸山園地。山隣大権現の鳥居と小さな社があり、丸山城跡の解説板がある。

「この城は北条氏に属した土肥・高谷城主富永氏の出城とされ、西に

ものといわれています。ここにあるのは出城跡(旧城)で、本城跡(新城)は国道の南側の丘陵にあったと思われ、今でも、この周辺には0・6メートル幅1メートルの土塁をめぐらしく1・2メートルの土塁をめぐらしあし曲輪が見られます……」





▲丸山園地



▲瀧桜一世



▲里山園地からの展望



周してこよう。休憩舎のある山頂からは富士山が望める。
足元に転がる大石は**力石**と言つて、若者が祭りなどで力試しに使つたものである。

戻つて車道を下れば終点の駿豆学園のバス停に出る。

西伊豆歩道の廻り崎コースの起点・小下田までは、国道を1、3番地バスなら2～3分の所なので歩いても20分くらいである。

大守院には弘法大師が数珠をかけたと言われる「数珠かけ石」と見ざる・言わざる・聞かざるの三猿が彫られた青面金剛の石碑（庚申塔）
富士見観音などが祀られている。庚申塔は、この石碑を左繩に縋った荒縄で縛ると、不思議と失せ物が出るといわれている。

周してこよう。休憩舎のある山頂からは富士山が望める。
足元に転がる大石は**力石**と言つて、若者が祭りなどで力試しに使つたものである。
戻つて車道を下れば終点の駿豆学園のバス停に出る。

西伊豆歩道の廻り崎コースの起点・小下田までは、国道を1・3番バスなら2~3分の所なので歩いても20分くらいである。

A scenic view of Mount Fuji, its peak capped in snow, rising majestically from behind a dark, rocky shoreline. The foreground is dominated by the silhouettes of bare tree branches, creating a natural frame for the mountain. In the middle ground, a calm body of water stretches towards the base of the mountain.



▲富士見園地

駿河湾越しに富士山が望める 海辺近くの自然遊歩道

24 西伊豆歩道（廻り崎コース）

廻り崎コースは富士見遊歩道と接

た秀和の顕彰碑もある。

富士山を望む岬の先端で愛の鐘を鳴らし、愛を確かめ合う恋人たちのメツカ
ロエの栽培が盛んなところで、冬場にはあたり一面アロエの花だらけになる。
コールベルとめがねがねがねを覗いて富士山
白い。

「コールベル」とめがね記念碑がある。めがねを覗いて富士山を見るのも面白い。



館行きのバスで1時間3分、小下田で下車。コースの入口は国道を少し行った右手に案内板がある所であるが、その前に最福寺へ寄っていこう。

最福寺には先代住職が私財を投じて作った資料館・夢の実現堂（入館無料）があり、三舟（勝海舟・山岡鉄舟・高橋泥舟）や三名僧（一休・白隱・良寛）の墨跡、当地出身の第14世本因坊秀和が使った囲碁セツト、土肥出身で日本のカラー写真の開発者・長口宮吉の文献など、その他貴重な資料が展示されている。

寺の入口には罔碁殿堂入りを果たし

「人宣言書」にサインすれば「恋人宣言証明書」と記念品が、お二人が結婚すれば祝電と記念品がもらえるほか、数々の特典がある。

毎年、2月14日のバレンタインデーと3月14日のホワイトデーには、恋人たちを対象にしたイベントが行われる。



▲イズサイフクジンダレ

コースの案内板から緩やかに簡易舗装された道を下る。段々になつたお墓と金比羅神社の前を抜けると正面にキラキラと輝く海と廻り崎が望める。時折、鐘の音が風に乗つて聞こえてくるのは、岬の先端で恋人たちが鳴らすラブコールベルである。小さな橋を渡ると端正な顔をした石仏（馬頭観音）が1体。左手に「おかる滝」と呼ばれる小さな滝が落ちている。

ぶつかる。階段を上がつて恋人岬へ。
ウッドデッキの恋人岬は富士見展望台。北に土肥方面の山並み、そして洋上に浮かぶ富士山、遠く南アルプス。西に三保方面、駿河湾に行き交う漁船の姿もオモチャのようだ。
デッキにはラブコールベルとプロンズの「アモーレ」像があり、ひきりなしに訪れた恋人たちが鐘を鳴らしていく。
ボードウォークを戻り、急な階段を上がりると、途中にもう一つのラブ

A photograph of a dense forest path. The path is made of dirt and small stones, winding through tall trees with thick trunks and lush green foliage. The perspective is from the bottom of the hill, looking up towards the top where the path disappears into the canopy. The overall atmosphere is shaded and serene.

▲ウバメガシの林

二つ目の小さな橋でまた分岐。その先に祠と不動の滝がある。分岐を右に下れば米崎の港だ。小さな漁村で港には数隻の漁船が係留されている。伊勢エビ漁が盛んで、秋の漁期には伊勢エビの水揚げ風景が見られる。

舗装された坂道を「若山牧水の碑」を見送ると、右にコースの案内板がある。真っすぐ行けば恋人岬のバス停へ行く。ちょっときつい丸太の段を上ると三等三角点のある**大旱山**。丸太の段から敷石の山道となり、マツやメダケが繁る尾根道が続く。左に分岐を二つ見送ってウバメガシの林を丸太の段の上り下りを繰り返すと舗装道（市道）の終点に出る。休憩舎がある所から畠の中の道を上り、再び舗装道に出たら右に上ればこのコースの終点・**小峰**のバス停。近くの民家に土肥桜の木がある。

▲ウバメガシの林



伊豆市のハイキングコースの花ごよみ

○見られる
○多く見られる

季節	春(3~5月)					夏(6~8月)			秋(9~11月)			冬(12~2月)						
	ワサビ	サクラ※	シャクナゲ☆	トウゴクシバツジ	ママザ克拉	ヒメシャラ	アマギツツジ	タマアジサイ	トリカブト	イソギク	ツワブキ	紅葉	スイセン	ウメ	アロエ	ツバキ	菜の花	アセビ
ハイキングコース																		
1 修善寺温泉史跡・文学散歩	○		○					○		○		○	○	○	○	○	○	○
2 いろは道～奥の院・桂大師	○		○	○	○			○		○		○	○	○	○	○	○	○
3 桂谷88ヶ所巡り	○		○	○	○			○		○		○	○	○	○	○	○	○
4 修善寺歩道	○		○	○	○			○		○		○	○	○	○	○	○	○
5 金冠山きよせの森	○		○	○	○			○		○		○		○	○	○	○	○
6 達磨山	○		○	○	○			○		○		○		○		○	○	○
7 コビサワラ原生林	○	○				○		○	○	○		○		○	○	○	○	○
8 天城シャクナゲコース		○	○	○	○			○	○	○		○		○			○	
9 天城縦走		○	○	○	○			○	○	○		○		○			○	
10 皮子平	○	○	○	○	○			○	○	○		○		○			○	
11 湯道・熊野山33観音めぐり		○						○				○		○	○	○	○	○
12 天城遊歩道	○	○						○		○		○		○	○	○	○	○
13 吉奈～船原遊歩道	○							○				○	○	○	○	○	○	○
14 狩野城跡		○						○				○		○		○	○	○
15 太郎杉歩道	○	○						○		○		○		○	○	○	○	○
16 踊子歩道	○	○						○		○		○		○	○	○	○	○
17 八丁池	○	○	○	○	○			○	○	○		○		○			○	
18 野鳥の森八丁池	○	○	○	○	○			○	○	○		○		○			○	
19 三筋山遊歩道	○	○	○	○	○			○		○		○		○		○	○	○
20 伊豆山稜線歩道(1)	○	○	○	○	○			○	○	○		○		○		○	○	○
21 伊豆山稜線歩道(2)	○	○	○	○	○			○	○	○		○		○		○	○	○
22 西伊豆歩道・通り崎コース		○						○		○		○	○	○	○	○	○	○
23 西伊豆歩道・丸山コース	○	○						○		○		○	○	○	○	○	○	○
24 西伊豆歩道・廻り崎コース	○	○						○		○		○	○	○	○	○	○	○

※伊豆市で見られる桜はソメイヨシノ・オオシマザクラ・ヤマザクラ・修善寺桜・修善寺寒桜・土肥桜・瀧桜・御世・薄墨桜・サイフクジシダなど。(ママザクラは別項に)
☆伊豆市で見られるシャクナゲは主に山間部では天城山の固有種であるアマギシャクナゲである。

修善寺温泉街、修善寺虹の郷、昭和の森グリーンガーデンでは主に西洋シャクナゲが主体である。

伊豆半島ジオパークの紹介



伊豆半島ジオパーク
IZU PENINSULA GEOPARK

○ ジオパークとは？

ジオパークという言葉は、ギリシャ語で『地球』や『大地』を意味するジオと「公園」を意味するパークを組み合わせたものです。

地球活動によってできた自然や文化といった大地（ジオ）の遺産を主な見所とする自然の中の公園です。大地の遺産を保護・保全し、教育・普及に活用し、持続的な地域の発展に取り組んでいる地域がジオパークを名乗ることができます。

○ 伊豆半島ジオパーク

伊豆半島は、約2千万年前に本州から離れた南数百km先の太平洋の海底に沈む火山群でした。その後、フィリピン海プレートの北上の動きに合わせて、日本の本州に接近し衝突、伊豆半島が誕生しました。

この本州への衝突は、約60万年前に起こりました。衝突後は、20万年前までは、半島のいたるところで噴火が続き、本書に記載のある天城山や達磨山といった伊豆の大型火山が誕生し、現在の伊豆半島の骨格を形成しました。

伊豆半島には、地球形成の痕跡が多数あり、その痕跡を間近でみることができる世界的にも特異な地域です。

ハイキングを行なながら、伊豆半島が太平洋の海底に位置し本州から数百km離れていたことを想像し痕跡を探してみてはいかがでしょうか。

伊豆半島ジオパークに関する活動を行っている伊豆半島ジオパーク推進協議会では、ホームページで情報発信等を行っています。下記QRコードから、ホームページへアクセスできます。また、**伊豆半島ジオパークミュージアム「ジオリア」**（伊豆市修善寺838-1）も、ぜひご覧ください。

【問合せ先】

伊豆半島ジオパーク推進協議会



〒410-2416

伊豆市修善寺838-1

TEL. 0558-72-0520

FAX. 0558-72-1355